

## 【日越大学メールマガジン Vol.31, 2020年2月号／3月合併号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナムハノイで開校しました。

現在、修士課程に3期生79名と、9月から第4期生85名（うち13名の外国人学生：日本人1名、ミャンマー人5名、ラオス人1名、フィリピン人1名、スリランカ人1名、ロシア人1名、ナイジェリア人3名）【3/5時点】の、計164名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究(MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ(MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。



### 【今月のトピックス】

#### 1 日越大学ニュース

##### 1. R/D (Record of Discussion: 技術協力プロジェクト討議議事録) 調印式

2月18日(水)に、小中鉄雄 JICA ベトナム事務所長とオアイン日越大学副学長の間で、技術協力プロジェクト「日越大学 教育・研究・運営能力向上プロジェクト」実施に係る討議議事録(R/D)の署名がおこなわれました。

当日は、COVID-19の影響もあり、規模を縮小しておこなわれましたが、日本側からは、大使館、JETRO ハノイ事務所からの代表者、及びベトナム側からは、首相府、計画投資省、外務省からの代表者にそれぞれ出席頂きました。

「日越大学 教育・研究・運営能力向上プロジェクト」では、日越大学での質の高い教育や研究活動を実施できるように、日越大学常勤講師、職員に対して研究、OJT等を通じて人材の育成をおこなうと共に、ベトナム、東南アジア地域における社会・産業界の発展を牽引する人材の輩出に寄与することを目指しています。また、協力期間は、2020年4月1日から2025年3月31日までの予定です。



(R/D 署名式の様子)

## 2. オープンキャンパスの開催

新型コロナウイルスの影響を考慮し、オープンキャンパスは規模を縮小し、オンラインのみでの実施となりました。オアイン副学長による挨拶に始まり、8つの修士課程プログラムや今年開講予定の学部「日本学プログラム」についても説明を行い、数多くの質問やコメントが寄せられました。

それらの質問に対して大学職員がひとつひとつ丁寧に回答を行った結果、多くの方々に日越大学に興味を持っていただけました。

<https://www.facebook.com/VietnamJapanUniversity>にて動画を閲覧することができますので、応援コメント、シェアを是非お願いいたします。

## 3. 第7回 AUN/SEED-Net Regional Conference への参加について

AUN/SEED-Net\*のご協力を得て、8月～11月に東南アジア各地で順次開催された AUN/SEED-Net の Regional Conference (工学系学会)のうち、ホーチミン(10月)、インドネシア(11月)、マレーシア(11月)にて開催された学会に VJU より各1名の教職員が参加し、研究発表に加え、VJU の紹介プレゼンテーションやブース設置による VJU 広報等を行いました。今回の参加により東南アジアおよび日本の教員との研究分野におけるネットワーク構築に加え VJU を知っていただく良い機会となり、今後の VJU における教育・研究の展開に向けた大きな財産となりました。

詳細については、以下の英語による報告をご参照ください。

- \* SEED-Net (アセアン工学系高等教育ネットワーク) は ASEAN のトップ26大学と日本の14大学の工学系ネットワークで JICA が設立・支援しています。メンバー校になるにはホスト国政府の了承が必要であり、ベトナムではハノイ工科大学 (HUST) とホーチミン工科大学 (HCMUT) の2校がメンバー校となっています。

In October and November 2019, VJU lecturer and researchers attended the AUN/Seed-net Conference series; the 5th International Conference on Low Carbon Asia & Beyond (ICLCA 2019), the 12th Regional Conference on Chemical Engineering (RCChE 2019), the 7th Regional Conference on Natural Disaster (RCND 2019), the International Conference on Renewable Energy Research & Challenge (ICoRER 2019) and the 12th Regional Conference on Energy Engineering (RCEnE 2019).

1. Dr. Phung Thi Viet Bac, R&D Promotion Officer, attended the 5th International Conference on Low Carbon Asia & Beyond (ICLCA 2019) and the 12th Regional Conference on Chemical Engineering (RCChE 2019) in October 15-17. The conference addressed the various challenges outlined under the United Nation's Sustainable Development Goals (SDGs). The theme of the conference was "Transformation towards Smart, Resilient & Sustainable Communities". Dr. Bac presented both oral and poster presentations about her research results which were implementing in VJU entitled "Theoretical Studies of Hydrogen Storage Materials: Hydrogen Diffusion in Monohydride Vanadium and Alloys" and "Graphene as Promising Sensing Material for Detection of VOCs at Low Concentration: A DFT Study". Concurrently, she showed up the VJU promotional activities to participants of the Conference. These joint conferences received much attention from scientists all over the world, in which there were over 300 papers submitted to the conference and 250 papers were selected for both oral and poster presentation. VJU brochures, VJU educational program flyers and admission information were presented in the VJU booth in Conference Hall to attract people and to explore VJU activities.

In the part of introduction in the oral presentation, Dr. Bac briefly introduced VJU and talked about the opportunity of collaboration in research and exchange students with other universities and institutions. Several researchers and staff members of the AUN/Seed-net were interested in the model of VJU and planned to visit VJU in near future to discuss collaboration opportunity.



*VJU booth in Hall of Vissai Saigon Hotel (15/10-17/10)*



*Presentation at Conference Hall in Vissai Saigon Hotel (15-17/10)*

In November 12-14, Dr. Dang Thanh Tu, Deputy Head of The Academic and R&D Promotion Department, attended the International Conference on Renewable Energy Research & Challenge (ICoRER 2019) which was held in conjunction with the 12th AUN/SEED-Net Regional Conference on Energy Engineering (RCEnE 2019) in Banyuwangi, Indonesia. The conference organized by Institut Teknologi Sepuluh Nopember (ITS) showed an outstanding collaboration among scholars, government sectors and industrial sectors. Dr. Tu made an oral presentation about her research on “Involvement of local communities to renewable energy development in Vietnam – Case studies in rural and mountainous areas”. She also showed up at the promotional booth to introduce VJU.



*Presentation at Conference Hall in Banyuwangi, Indonesia (12-14/11)*



VJU booth in in Banyuwangi, Indonesia (12-14/11)

2. Dr. Quang Nguyen, full-time lecturer of M CCD program, attended the 7th AUN/SEED-Net Regional Conference on Natural Disaster (RCND) 2019 held on November 25-26, 2019 in Putrajaya, Malaysia. This international conference provided a forum to collect and disseminate the most updated research of issues and public interests in the field of natural disaster in Southeast Asia and Japan in order to contribute to the community and to draw support from the industry and government sectors. Dr. Quang Nguyen made an oral presentation about his research on flood disaster impact assessment using geospatial analysis methods. He also made another presentation to introduce VJU Project to other participants at the conference.



Presentation at Conference Hall in Putrajaya, Malaysia (25-26/11)

#### 4. 学外機関連携情報

3月1日に大阪大学大学院工学研究科との間で、学術交流協定および学生交換協定を締結しました。学生交換協定により、年間5名まで、1年間を上限とした学生交換が可能となります。今回の協定締結によりVJUの協定先は33大学・機関（国内12、国外21）となりました。

#### 5. ANAインターンシップ

昨年に引き続き、日越大学の提携企業でもある全日本空輸株式会社（以下、ANA）の実施する短期インターンシッププログラムにご招待いただき、3名の日越大学学生が参加しました。2月17日から20日までの間、企業管理、地域研究、気候変動・開発プログラムの学生が、羽田空港やANAのオフィス見学、またさまざまな講義やグループ・ワークを通じて、日本の航空会社の取り組みについて深く学ぶことができました。





## 2 第2期終了生進学就職状況報告

第2期修了生73名の進路状況を調査した結果、約9割が進学または就職していることが明らかになりました。

### - 日本や外国の博士課程への進学（9名）

日本の進学先：大阪大学、京都大学、筑波大学、長岡技術科学大学、横浜国立大学、立命館大学

外国の進学先：モントリオール大学（カナダ）、忠北大学（韓国）

### - 就職（55名）

ベトナム国内の官公庁、公的機関、NGO、日本企業など幅広い分野へ就職しています。

日系企業へ就職した13名のうち7名は日本本社での採用です。建設系・環境系エンジニアや貿易関係、品質管理の分野などで活躍しています。

日越大学修了生の今後のさらなる活躍が期待されます。

## 3 第3期生インターンシップ報告

本年9月から本年1月にかけて、第3期生の日本でのインターンシップがおこなわれ、その様子を今月号、来月号において、各プログラムの日本でのインターンシップ報告をお伝えしていく予定で、今月は、地域研究（日本研究）プログラム(MAS-JP)、企業管理プログラム(MBA)、公共政策プログラム(MPP)、及び気候変動・開発プログラム(MCCD)からの報告をお伝えします。

### 【地域研究（日本研究）プログラム(MAS-JP)】

地域研究プログラム日本研究3期生の学生たち6名は、2班に分かれて、日本でのインターンシップに参加しました。

第1陣はゼンショープログラム支援生4名で、9月10日から1月23日までの約4か月のあいだ、東京大学で各講義を聴講しながら、修士論文のための研究活動を行いました。第2陣の2名は、9月15日から1月13日までの約3か月のあいだ、早稲田大学での研究活動に従事しながら、企業インターンシップなどにも参加しました。



学生たちの修士論文テーマは多岐にわたります。日本における紙芝居に着目し、それがベトナムとの文化交流にどのような役割をもたらしたかを検討する研究や、「子ども中心主義」の視点から日越の初等教育比較を試みる研究、または「ひきこもり」や、高齢化社会におけるコンビニの役割などの、現代日本が直面する社会問題を対象とした研究テーマに取り組む学生もいます。他方で、異文化間婚姻における母語教育問題や、技能実習生を対象にした日本語教育問題など、日越間関係が緊密とされる近年の情勢を反映した研究にも取り組んでおります。

インターンシップから帰国後の彼らは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大学への通学が制限されておりますが、その間も6月の修士論文提出を目指して、日々励んでいるようです。博士課程への進学が決定している学生も中にはおります。これからの新しい日越関係を支える人材としての成長が楽しみです。

## 【公共政策プログラム(MPP)】

ルオン ティ アン  
Luong Thi An

令和元年9月25日から12月20日まで日本におけるインターンシップに参加して来ました。長い期間ではありませんが、様々なことを勉強し、日本の文化に触れる沢山の機会をいただきました。私にとって、それらは貴重な経験でした。

日本に着いた日に、筑波大学国際室のスタッフから、暖かく迎えて頂きました。三ヶ月の間、筑波大学の学生宿舎に宿泊しました。筑波大学のキャンパスの広さに、まず驚かされました。

筑波大学では、指導教員のゼミに参加しました。研究室の皆が「教育」に関して研究していますが、人によってテーマが違います。私たちが週に一回、自分のテーマについて発表し、内容について議論しました。指導教員や他の学生からの指摘で、自らの問題点を見直し、課題を見つけることができました。そのため、論文のテーマや構成が段々と明確になってきました。

期間中、国土交通省や経済産業省などの政府機関などを見学する機会がありました。各機関の実施している政策が紹介され、特に官民連携政策の大切さが分かりました。これから、ベトナムの発展のために、日本の事例を見習い、ベトナムの課題に適用すべきだと考えています。

また、日本にいるうちに公共政策プログラムの5人と日本人の友達の3人と一緒に土浦花火大会に見に行きました。当日少々寒かったですが、素晴らしい打ち上げ花火を見て、寒さを感じなくなりました。花火を見ながら、おしゃべりしたり、おつまみを食べたりしたのは最高の思い出です。

日越大学と筑波大学、または、JICA様の支援のおかげで、三ヶ月間の豊かなインターンシップが完了できました。それは忘れられない体験でした。

ベトナムに戻ってから、日本で学んだ知識を生かして、修士論文を完成させたいと思います。





## 【企業管理プログラム(MBA)】

My name is Do Minh Hanh, MBA 3<sup>rd</sup> Student of VJU.

The last four months of mine have passed in the blink of an eye. I used to dream of studying abroad and visiting Japan for once in my life since I was a child. However, it was difficult for me because of financial problem.

Fortunately, now, these dreams came true after 1.5 years of attending MBA program at VJU.

I and my classmates had a 4-month internship at Yokohama National University. We have spent those months for Studying at YNU, company visits, social and cultural activities, and also doing our thesis. Every week, we went to school to study business related courses, Japanese class, and seminars with professors and other international students. These were interesting courses, especially when class members who came from different cultures (Japanese, Chinese, Thailand, American, Myanmar, and Vietnamese) shared different points of view.



One important part of our schedule was company visits and internships. We had chances to visit many famous Japanese companies and plants to see how they operate and manufacture their products such as All Nippon Airways (aviation), Nikkei (journalism), Nissan (automobile), Kirin (brewery and beverage), FANCL (cosmetic and supplement), Japan Overseas Transport Co. (logistic), etc. Some students also had a chance to take a short internship to work as real farmers at Yoshinoya and a long term internship at JG Corporation. After company visits, I could understand more

about what we studied at VJU and YNU, when observed those were implemented in reality, besides new knowledge I gained from the sharing from companies' employees and managers.

Of course, Japan, in my eyes, in the last four months was Not only through studying at school and company visits. I Have learned a lot when living in Japan, even in a short time. Those also come from daily life. I learned the behavior of Japanese people while using public transport, subway, and see how people treat disabled people. I learned about the way of doing business when I went to a modern and trendy mall and local shops and saw the way they decorate, place products, and do "omotenashi" – a Japanese way of customer service. Besides many fantastic entertainment places and higher living standard in comparison with Vietnam, Japan also has social issues. I knew there is a small grey corner in this developed country that has lonely people when I took part in Kodomo Shokudo – a social project that supports kids and the elders who take their meals alone. After four months of study and living in Japan, I concluded four things for myself about Japanese way of working and living, which are quality assurance, discipline, creation (be modern but also retain tradition: be creative and respect for differences, uniqueness) and doing for others (this is about social responsibility



and kindness). Last but not least, there is one valuable thing I received from Japan this time, which was warmly, kindly treating from beloved IPO staff at YNU and supporters, respected professors, generous JICA and companies, and also kind strangers I met on the street. Thank you for giving me this experience, a precious gift that I would never forget in my life.

#### 4 留学生に聞いてみた！

今月号から、新シリーズ「留学生に聞いてみた！」を始めます。日越大学では、今年 85 名の入学生のうち 13 名が留学生(8 か国)であるなど、国際化が進んでいます。

第 2 回は、ナイジェリアからの留学生、Anthony Azuoko さんです！

Anthony さんは MCCD プログラムに所属する 2 年生（3 期生）であり、ナイジェリアのエボニ（Ebonyi）州出身です。

日越大学には現在、19 名の留学生が在籍していますが、そのうち 7 名がアフリカから来ています。遙かな地アフリカからどうして日越大にやってきて、どこに向かっていくのか、今回掘り下げたいと思います。



##### Q1. どうしてベトナムに!?

学士はナイジェリアで哲学を専攻し、思索にふけるなかで、環境問題への関心が高まってきました。特にグローバルイシューである地球温暖化に貢献したいという思いが強かったです。ナイジェリアも気温上昇、洪水や干ばつに苦しむ地域が多いなか、気候変動への適応策について学びたいと思い、留学先を探しました。

ナイジェリアから留学というと、ほとんどが欧米に行くのですが、私は未知の地であるアジアに行ってみたいという思いがありました。そこで、たまたま高校時代の友達が留学していたベトナムから検討しました。ベトナムはアジアの中でも驚異的な経済成長を続ける一方、それと表裏一体で進む、世界ワーストクラスともいえる大気汚染等の環境問題に関心がありました。

##### Q2. 日越大学入学のきっかけは!?

ベトナムの大学を検索していたところ、日越大学を発見しました。ナイジェリアの首都アブジャは、ベトナムの多くの地域よりも優れた大都市であり、周囲からはなぜ突然ベトナムで学ぶのかと不思議がられることが大半だったのですが、高い技術と礼儀正しさを併せ持つ日本から学ぶという要素を持った日越大学に魅力を感じ、留学を決意しました。

また大学自体が非常に新しいことから、自分が先駆者になりたいという思いもありました。もちろん British University や FPT 大学も新しく、候補として考えていましたが、日越大学は奨学金の制度が充実しており、学科の中身としても、気候変動対策コースが新しく開かれるということが大きな魅力でした。



### Q3.日越大学に来てからの生活はどうか？

最初はベトナムの食べ物に慣れなかったです。今では米主体の生活にも慣れ、好物はコムビンザン（白米の上に、好きなおかずを取って乗せていく庶民食堂の料理）です。

2年目はインターンシップで日本にも行くことができました。茨城（水戸、日立、ひたちなか、つくば）を訪れ、台風被災地でボランティア活動をしたり、茨城県知事にも会えたりした貴重な経験を積むことができました。

双方で苦労したことといえば、ナイジェリアに比べて冬が寒いことですね。まさに私自身の気候変動への適応策が大変でした(笑)。

### Q4.日越大学を通じて、どうなっていきたいですか？

ベトナムとナイジェリアの人々の環境意識及び気候変動への適応策の社会的インパクトについて、比較研究をしています。例えばナイジェリアからベトナムに行く際、税関で留学目的を聞かれたので、気候変動について学ぶと答えたところ、税関の方は気温が上がっている程度にしか考えておらず、一層の啓発活動が必要だなと感じております。

卒業後は国際機関等で Open mind に何事も積極的に挑んでいきたいです。そして PhD を取得し、どこかで講師として活動したいです。

— Anthony さん、ありがとうございました！ まっとうどこに行ってもすぐ適応していけると信じています。

## 5 人事往来

☞ 岡本 直久	公共政策プログラム	03/21/2019 ~ 03/31/2020
☞ 石田 和基	業務調整 I	07/01/2015 ~ 03/31/2020
☞ 浅水 伸介	業務調整 II / 産学連携	08/12/2019 ~ 03/31/2020

## 6 日越大学サマープログラム 2020 の開催について

毎年高い評価をいただいている日越大学サマープログラムを、今年も 8 月下旬に開催する予定です。今年で 4 回目となるイベントです。詳細は今後お知らせして行きます。

予定期間：8 月 16 日（日）～23 日（日）※プログラム自体は 22 日（土）まで。

締切は 7 月上旬を予定。（なお、今後の情勢によっては、中止もしくは延期の可能性もあります）

### 【昨年の様子】



7 編集委員からのご挨拶

「日越大学修士課程設立プロジェクト」は、2020年3月31日を以って、その協力期間を終了し、2020年4月1日から5年間の協力期間の予定で、技術協力プロジェクト「日越大学 教育・研究・運営能力向上プロジェクト」が開始されます。

これに伴い、本メールマガジンは今月号を以って終了させていただきます。

来月以降からは、新たな編集委員のもとで、更にグレードアップし、皆様に分かり易く、また、日越大学の魅力を十二分にお伝えできるものと存じます。

つきましては、本欄をお借りして、今月号で交代する編集委員から皆様にご挨拶をさせていただきます。

- ✚ 2019年8月に赴任し、短い期間ながらも日越大学の広報に関わらせて頂きました。この度、任期を終えて帰国いたしますが、今度は日本国内での日越大学の知名度アップに陰ながら応援していきたいと思えます。(A.S.)
- ✚ 本プロジェクト開始当初から約5年間、日越大学の創成期から関わらせて頂きました。本メールマガジンは、当初 JICA 本部が編集していたものを 2018年4月からプロジェクト関係者で編集することになりました。原稿集めに四苦八苦することもありましたが、日越大学教職員の皆さん、JICA 専門家の皆さん、そして JICA ベトナム事務所の歴代プロジェクト担当所員の方々のご協力、ご支援を得て、微力ながら、本学をご支援頂いている皆さまに、日越大学の魅力について、お伝え出来たのではないかと、思っています。  
今後は、日越大学、プロジェクトの外から、本学の成長、活躍を見守っていききたいと思っています。(I.K.)



【お問い合わせ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail: [mail.magazine@vju.ac.vn](mailto:mail.magazine@vju.ac.vn)

日越大学 HP <http://vju.vnu.edu.vn/>

日越大学 Facebook (ベトナム語) <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook (日本語) <https://www.facebook.com/jicavju/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 [mail.magazine@vju.ac.vn](mailto:mail.magazine@vju.ac.vn) までご連絡頂ければ幸甚に存じます。